

現在の活動をするようになりました。市民活動支援センターでは、まち寺小屋や市長とのゆんたく会をしたり、糸満市は第5次総合計画が始まるので、そこに向けてワークショップをしたり、街づくり委員にさせてもらっています。今は、若い人たちと活動しながら将来の街をどの様に考えていこうかと少しづつ検討している段階です。

福元 私は、市役所に採用されてからそれぞれの場所で印象深いところがあるのですが、最初の業務は市民課に配属され、戦争で消失したり滅失したりした戸籍を再生するという仕事から始まりました。

私たちの年代というのは、今ほど平和教育を受けてきた年代ではない。もちろん慰霊の日の黙とうなどはありましたが、当時の大人たち、おじーやおばーは戦争について語れない時期に小さいころを過ごしたと感じています。

戦争で戸籍が滅失したまま家族全員が亡くなり、そのままになっている戸籍など、恥ずかしながら仕事を通して戦争の影響を知ったことが少しショックでした。

私はずっと糸満市で生活しているのですが、全国植樹祭など、全国規模の大会などに手伝いとして携われたことも貴重な経験となっています。

3

市の課題や現状など

金城 地域コミュニティの希薄化というか、つながりが弱くなってきているように感じます。青年会も少なくなっていると思います。

徳元 地域コミュニティもそうですが、老人クラブや市内にある各種団体の組織的繋がりが年々低下しているの、そのことが糸満市事態の疲弊につながっていくのではないかと懸念しています。

市長 青年会が少なくなっている理由として考えられるのは、家で過ごせるような娯楽などが増えて、若い人の生活スタイルが多様化していることだと思います。私が青年時代は青年会がないところも立ち上げたりしましたが、今では地域の伝統行事があるところでも会員が減少しているようです。

な学生会というのがあったんですよ。そこからもやはり、それぞれの年齢にあったステージで地域に貢献することが地域コミュニティづくりの一番大きな柱・力になると思います。地域の組織団体が活性化しているところは、地域が活き活きしていますね。

金城 私も各種団体や地域との関わり、みんなで支える地域づくりが今後の鍵だと感じています。サタデークッキングで児童館に2年いましたので、そういった場所で老人会とも三世交代交流するような活動も面白いと思います。

市長 糸満市は、昨年、全国の魅力度ランキングで伸び率が全国一位になったりと、注目されていると思います。名城には新しくホテルもできますし、空港からの立地条件もよく、糸満市はいろいろな可能性を秘めています。そういった意味でも、より住みやすい街にするためには、コミュニティからすべての人たちが市に関わっていきけるような環境をつくっていかないといけないのかなと感じます。

ネットの普及でいろいろな人につながりやすい時代にはなりましたが、隣の人手をつないだ時の暖かさを感じることはネットでは難しい。人と人が直接かわって初めてコミュニティというものができると思っています。子供たちも含めて、若い世代さらに働く世代がお年寄りを支える、そしてお年寄りの皆さんも孫を

4

これからの糸満市

川門 世界をみたり、県外をみたりしたいという気持ちを持っている人は多いと思います。外の世界をみて経験してきてもいいけど、そこで得た知識を戻ってきて糸満市に落としつけてほしいと感じます。自分の経験と知識を混ぜ合わせながらしっかりとした考え方をもっている人も多いので、そういった人をうまく地域に溶けこませることができないか考えています。

徳元 人材は育っているけど活用する場がない。居場所がないというのはたくさんあると思います。川門さんは海外などいろいろな見聞してきて、活かしていると思います。人が自分を平均化してしまうところがある。外で経験して得た知識など、高まったものでみんなを引き上げるという仕組みが組織的に何かあったらいいなと感じます。

また地域の組織団体は大事にしないといけないですね。昔は、高校生・大学生を中心に中学生に指導するよう

みたり、子供たちを支えるような、みんなで循環して支え合う環境を糸満市に作っていかれたらと思っています。そういうことができるような関係にあると糸満市全体が一つのコミュニティになって、暖かい、みんなで集えるような街になって、発展する糸満市になるのかなと考えています。

5

50周年式典に向けて

福元 市の中では実行委員会を設置して先日、第1回の会議を実施したところです。市制施行50周年です。で、記念式典や祝賀会は検討していますが、コロナ禍の中なので、状況をみながら市民の皆さまの安全安心、健康を守ることを優先に判断していくことになりました。ただ、これまでの50周年そしてこれからの50周年の節目になるような年になりますので、市民参加型を念頭に置いた事業を創意思工夫してやっていかれたらと考えています。市民の皆さまもぜひご意見いただけたらと思っています。

詳細については決まり次第、市のホームページや広報で周知します。

糸満市のこれまでを

写真でプレイバック



▶1971年(昭和46年)12月1日の市制施行祝賀民謡ショーの様子

糸満町・兼城村・高嶺村・三和村が糸満町として合併してから10年目。当時県下10番目の市として糸満市が誕生しました。

中庭に特設ステージが設けられ、民謡ショー、婦人会による舞踊や真栄里の獅子舞・棒術、喜屋武エイサーなどが披露され、多くの観客であふれていたそうです。



▲1978年(昭和53年)7月に撮影された糸満ロータリー

この年の7月30日の午前6時をもって、県下一斉に右側通行から左側通行へ変更になりました。写真は、交通方法変更前(右側通行)の様子がわかる糸満ロータリーの様子です。



▲1987年(昭和62年)10月26日海邦国体、成年男子の軟式野球競技開会式の様子

海邦国体施設としてバドミントン会場となる西崎総合体育館や西崎球場、近代的な機能を備えた西崎陸上競技場が相次いで完成。西崎球場の黒土は甲子園と同じ黒土で、当時の野球少年達の憧れだったようです。